

●着衣着火にご注意を

着衣着火とは

コンロの火、暖房器具、仏壇のろうそく、草焼きなどの火が、着ている衣服に着火した火災のことです。全国で毎年約100人の方が亡くなっており、そのうち8割が65歳以上の方です。



着衣着火を防ぐために

- ・火を扱う時は、袖や裾が広がっている服装を避けましょう。
- ・調理する時は、燃えにくい防災加工されたエプロンや腕カバーを着用しましょう。
- ・ガスコンロ越しの作業は、必ず火を消してから行いましょう。
- ・屋外で火を扱う場合は、風などにより衣服に着火しやすく、燃え広がる危険性が高いので注意してください。

問合せ 鳥取県西部広域行政管理組合消防局予防課（電話0859-35-1954 FAX 0859-35-1961）

春、新しい生活を始める人に

春は進学・就職などで転居する人が多い時期です。引越しするとき、まず引越し先にどんな災害危険があるかを確認しましょう。また、住居だけでなく、多くの時間を過ごす職場や学校についても災害危険がないか確認しておきましょう。

普段は多くの人が平穏に暮らしている町でも思わぬ災害危険が潜んでいます。

【新しく生活する場所の危険を知る】

災害から身を守るために、引越し先の自治体が公表している土砂災害・洪水・地震・津波・高潮・火山災害などのハザードマップをもとに、新しく住むところの災害危険の有無を確認しましょう。

ハザードマップは引越し先の市役所・町村役場の窓口やホームページで確認できます。

また、全国のハザードマップは国土交通省の「ハザードマップポータルサイト」で見ることができ、あわせて、それぞれの災害に対応した避難所の位置を確認し、実際に避難所に行ってみることで、避難所の場所や避難する経路の危険についても理解しておきましょう。

市町村によっては、地震、津波、洪水など災害によって避難所が異なる場所もあります。

【危険情報を受ける】

災害時に自治体からの危険を知らせる情報が確実に得られるように、防災無線や防災アプリなど、情報を受ける手段も確認しておきましょう。

危険が迫ったことを知らせる防災無線では戸別受信機を使わず、屋外のスピーカーのみで放送するところが多くありますが、屋内では聞き取りにくい場



合があります。このような場合、市町村によっては防災ラジオを使って緊急放送を屋内でも聞くことができます。転入したとき窓口で確認してください。

【食料の備えを】

周囲に畑などが多く自然の水も豊かな日南町と異なり、都市部の食料は物流に依存しているため、災害で物流網が途絶えると、たちまち食料や飲料水が不足するおそれがあります。

食料などの供給が途絶えても、3日間程度は買い物をしなくても生活できるよう、日頃から非常用の食料や飲料水を確保しておきましょう。非常用の食料は特別なものを準備する必要はありません。日常食べている缶詰・レトルト食品・乾麺など、常温で保管できて消費期限や賞味期限の長いものを多めに買っておいで、食べた分を買い足すことを続ける「ローリングストック」を心がけましょう。

【新居の調理器具にも注意】

新しい生活の中で、コンロなどの調理器具が使い慣れたものから変わった時にも注意しましょう。安全性が高いといわれるIHクッキングヒーターでも火災が発生しています。特に使い方が理解できていない、引越し当日に火災が起こることがあります。調理器具の取り扱い説明書をよく読んで正しい使い方理解してから使いましょう。

【安心のために】

離れて暮らす家族と安否の確認ができるように災害用伝言ダイヤル（171）の使用方法も確認しておきましょう。新しく住むところの危険を理解して、新しい生活を安全に始めましょう。

【問合せ】役場総務課

82-11111

